



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年1月31日

上場会社名 株式会社 J A L U X 上場取引所 東
 コード番号 2729 URL <https://www.jalux.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 篠原 昌司
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 山崎 泰弘 TEL 03-6367-8822
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	110,951	△21.0	3,606	△10.1	4,287	△1.6	2,781	9.4
2019年3月期第3四半期	140,360	19.3	4,011	11.1	4,359	10.4	2,542	13.5

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 3,082百万円(5.7%) 2019年3月期第3四半期 2,916百万円(14.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	219.99	—
2019年3月期第3四半期	201.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	57,891	27,794	45.1
2019年3月期	56,887	26,051	42.4

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 26,080百万円 2019年3月期 24,128百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	65.00	65.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

当社は定款において期末日及び第2四半期末日を配当基準日と定めていますが、現時点では当期末日における配当予想額は未定です。

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	150,000	△19.2	4,200	△9.2	5,100	0.1	3,300	11.4	261.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、【添付資料】P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	12,775,000株	2019年3月期	12,775,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	131,493株	2019年3月期	131,414株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	12,643,521株	2019年3月期3Q	12,643,651株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる事項については、【添付資料】P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調が継続したものの、米中貿易摩擦の長期化懸念など、不安定な国際情勢により先行きは不透明な状況で推移しました。

このような環境の下、当社グループの事業概況は、以下のとおりとなりました。

売上高は、航空機エンジン部品販売の減少などにより、前年同期比29,408百万円減の110,951百万円(前年同期比79.0%)となりました。

売上総利益は、前年同期比144百万円減の20,202百万円(同99.3%)となりました。

営業利益は、人件費の増加など販売費及び一般管理費が増加したことにより、前年同期比405百万円減の3,606百万円(同89.9%)となりました。

経常利益は、持分法による投資利益が増加したことなどにより、前年同期比71百万円減の4,287百万円(同98.4%)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記の持分法による投資利益の増加や税金費用の減少及び非支配株主に帰属する四半期純利益の減少により、前年同期比239百万円増の2,781百万円(同109.4%)となりました。

連結業績 (金額単位：百万円)	前第3四半期 (2018年4～12月)	当第3四半期 (2019年4～12月)	前年同期比(%)	前年同期差
売上高	140,360	110,951	79.0	△29,408
売上総利益	20,347	20,202	99.3	△144
営業利益	4,011	3,606	89.9	△405
経常利益	4,359	4,287	98.4	△71
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,542	2,781	109.4	239

[セグメントの概況]

セグメント別の概況につきましては以下のとおりです。

第1四半期連結会計期間より、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を、従来の配賦前営業利益から全社費用等（管理部門の費用等）配賦後の経常利益に変更しています。また、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、上記変更を踏まえて作成したものを記載しています。

なお、第1四半期連結会計期間より、「航空・空港関連事業」のセグメント名称を「航空・空港事業」に変更しています。

① 航空・空港事業

当セグメントでは、航空機や航空機部品などの販売、空港用特殊車両や整備機材などの販売、航空機エンジンリース事業、海外空港の運営事業などを行っています。

主力である重工業向け航空機エンジン部品販売は、一部取引先への販売が減少しましたが、その他取引は順調に推移しました。シンガポールにおける航空機エンジンリース事業は引き続き堅調に推移しました。また、ASEAN域における航空需要の増加に伴い、海外空港の運営事業が順調に推移し、持分法による投資利益が増加しました。なお、前年同期に販売用中古航空機の評価減を行ったことにより、当期のセグメント利益は前年同期を上回りました。

以上の結果、当セグメントにおける売上高は34,537百万円（前年同期比54.3%）、営業利益は941百万円（同109.2%）、経常利益は1,036百万円（同142.2%）となりました。

航空・空港事業 (金額単位：百万円)	前第3四半期 (2018年4～12月)	当第3四半期 (2019年4～12月)	前年同期比(%)	前年同期差
売上高	63,599	34,537	54.3	△29,062
営業利益	861	941	109.2	79
経常利益	729	1,036	142.2	307

② ライフサービス事業

当セグメントでは、不動産事業での不動産販売・分譲・仲介・賃貸、施設管理、高齢者・介護施設の運営事業、保険事業での損害・生命保険の保険代理店業、機械・資材事業での印刷・用紙・包材の販売、特殊車両の販売、道路関連資機材の販売などを行っています。

不動産事業は、販売・分譲用の開発については市況に鑑み、案件の厳選に努めた一方、仲介や施設管理・工事などが順調に推移しました。また、タイにおけるサービス付アパートメント運営事業「L'axe Sriracha」は稼働率が向上しました。保険事業は、JALカード会員向け保険や法人向け保険が拡大しました。機械・資材事業は、用紙・包材のほか、特殊車両や米国での道路補修材「AQUA PATCH」の販売が増加しました。

以上の結果、当セグメントにおける売上高は9,691百万円（前年同期比102.7%）、営業利益は845百万円（同128.0%）、経常利益は481百万円（同144.0%）となりました。

ライフサービス事業 (金額単位：百万円)	前第3四半期 (2018年4～12月)	当第3四半期 (2019年4～12月)	前年同期比(%)	前年同期差
売上高	9,439	9,691	102.7	251
営業利益	660	845	128.0	184
経常利益	334	481	144.0	147

③ リテール事業

当セグメントでは、空港店舗事業、免税店舗事業、免税店舗向け卸販売、通信販売事業、贈答用食品販売などを行っています。

空港店舗事業「BLUE SKY」は、前期の期中での賃貸借契約満了による一部店舗閉鎖に伴い販売が減少したほか、新規出店や改装に伴う費用や人件費などが増加しました。免税店舗事業「JAL DUTYFREE」は、一部店舗の改装や訪日外国人の消費動向の変化などが影響し販売が減少しました。一方、免税店舗向け卸販売は、取引先の拡大などにより増加しました。また、通信販売事業は、インターネット販売が増加しました。贈答用食品販売は、概ね前年並みで推移しました。

以上の結果、当セグメントにおける売上高は47,048百万円（前年同期比96.5%）、営業利益は2,404百万円（同77.0%）、経常利益は2,100百万円（同76.0%）となりました。

リテール事業 (金額単位：百万円)	前第3四半期 (2018年4～12月)	当第3四半期 (2019年4～12月)	前年同期比(%)	前年同期差
売上高	48,773	47,048	96.5	△1,724
営業利益	3,123	2,404	77.0	△719
経常利益	2,761	2,100	76.0	△661

④ フーズ・ビバレッジ事業

当セグメントでは、水産物、農産物、ワイン、加工食品の卸販売、食料品製造などを行っています。

水産物は、寿司種用の生食用加工品の卸販売が増加したほか、「トンロー日本市場」（タイ）向けの鮮魚の輸出・販売などが増加しました。農産物は、パブリカやオランダ産ミニトマト「Vanity」の卸販売が順調に推移しました。ワインは、フランス産シャンパーニュ「ビルカール・サルモン」やチリ産ワイン「エラスリス」などのホテル・レストラン・小売業向け卸販売が増加しました。加工食品は、当社オリジナル菓子類の卸販売が増加したほか、米国のスイーツセレクトショップ「J. sweets」やJALUX ASIA Ltd.（タイ）向けの日本ブランド菓子類の輸出・販売などが増加しました。食料品製造は、空港店舗向け弁当類製造が堅調に推移しました。

以上の結果、当セグメントにおける売上高は20,878百万円（前年同期比106.9%）、営業利益は845百万円（同112.9%）、経常利益は461百万円（同120.1%）となりました。

フーズ・ビバレッジ事業 (金額単位：百万円)	前第3四半期 (2018年4～12月)	当第3四半期 (2019年4～12月)	前年同期比(%)	前年同期差
売上高	19,536	20,878	106.9	1,342
営業利益	748	845	112.9	96
経常利益	384	461	120.1	77

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

航空機エンジン部品の販売が減少したとともに、売掛金の回収が進んだ結果、売上債権が減少しました。

一方で、リテール事業における年末年始向け在庫や一部重工業向け航空機エンジン部品の在庫が増加しました。また、不動産事業における賃貸用不動産の取得や空港店舗事業における店舗改装、消費税増税に伴うソフトウェアの改修、事業投資等を行い、固定資産が増加しました。

その結果、総資産は前連結会計年度末と比較して1,004百万円増加し、57,891百万円になりました。

(負債)

短期借入金の返済を行いました。一方で、航空機エンジン部品の仕入れや、年末商戦需要による百貨店向けの卸販売が増加したことにより、仕入債務が増加しました。また、コマーシャル・ペーパーを発行しました。

その結果、負債合計は前連結会計年度末と比較して739百万円減少し、30,096百万円になりました。

(株主資本)

配当金の支払いを行った一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより、利益剰余金が増加しました。

その結果、株主資本は前連結会計年度末と比較して1,958百万円増加し、26,529百万円になりました。

また、自己資本比率は2.7ポイント増加し、45.1%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年4月26日発表の業績予想から修正しております。詳細につきましては、2019年11月29日に公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、「新型コロナウイルス(2019-nCoV)」の影響については、今後の動向に注視し、当社事業において公表すべき事項が発生した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,050,750	6,434,385
受取手形及び売掛金	21,328,708	18,167,806
たな卸資産	14,371,088	15,438,484
その他	4,669,203	5,699,379
貸倒引当金	△20,916	△19,382
流動資産合計	46,398,833	45,720,673
固定資産		
有形固定資産	4,508,210	5,243,493
無形固定資産	490,919	541,510
投資その他の資産		
その他	5,504,594	6,396,683
貸倒引当金	△15,556	△11,320
投資その他の資産合計	5,489,037	6,385,363
固定資産合計	10,488,167	12,170,367
資産合計	56,887,000	57,891,041
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,687,138	13,784,099
短期借入金	7,741,919	1,857,057
コマーシャル・ペーパー	2,999,997	5,999,990
未払法人税等	1,001,952	210,047
未払費用	5,767,120	4,782,509
その他	3,130,047	2,341,226
流動負債合計	29,328,176	28,974,930
固定負債		
長期借入金	940,569	539,732
退職給付に係る負債	43,928	43,370
その他	523,023	538,457
固定負債合計	1,507,521	1,121,560
負債合計	30,835,698	30,096,491
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,558,550	2,558,550
資本剰余金	688,723	688,723
利益剰余金	21,458,367	23,417,438
自己株式	△135,155	△135,373
株主資本合計	24,570,484	26,529,339
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,295	63,966
繰延ヘッジ損益	△17,932	413
為替換算調整勘定	△392,253	△469,407
退職給付に係る調整累計額	△50,884	△44,084
その他の包括利益累計額合計	△441,774	△449,111
非支配株主持分	1,922,592	1,714,322
純資産合計	26,051,302	27,794,549
負債純資産合計	56,887,000	57,891,041

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	140,360,187	110,951,775
売上原価	120,013,131	90,748,887
売上総利益	20,347,055	20,202,887
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	1,336,701	1,353,661
給料及び手当	5,530,075	5,710,521
退職給付費用	191,802	186,157
減価償却費	360,046	480,820
貸倒引当金繰入額	4,082	△1,707
賃借料	3,539,656	3,541,626
その他	5,373,288	5,325,584
販売費及び一般管理費合計	16,335,653	16,596,665
営業利益	4,011,402	3,606,222
営業外収益		
受取利息	7,352	1,938
受取配当金	21,438	27,007
持分法による投資利益	419,312	653,215
為替差益	—	18,839
その他	69,819	72,299
営業外収益合計	517,921	773,300
営業外費用		
支払利息	103,535	80,057
支払手数料	2,321	8,155
為替差損	53,334	—
その他	11,005	3,366
営業外費用合計	170,197	91,578
経常利益	4,359,126	4,287,944
特別利益		
固定資産売却益	1,505	825
投資有価証券売却益	—	3,360
子会社株式売却益	—	9,630
その他	875	772
特別利益合計	2,381	14,587
特別損失		
固定資産処分損	46,408	24,612
関連会社株式売却損	—	48,601
その他	3,542	—
特別損失合計	49,951	73,214
税金等調整前四半期純利益	4,311,556	4,229,317
法人税等	1,344,188	1,138,646
四半期純利益	2,967,368	3,090,670
非支配株主に帰属する四半期純利益	425,189	309,260
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,542,178	2,781,410

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	2,967,368	3,090,670
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,047	45,695
繰延ヘッジ損益	△29,733	18,346
為替換算調整勘定	13,896	△82,651
退職給付に係る調整額	15,219	6,800
持分法適用会社に対する持分相当額	△61,673	3,791
その他の包括利益合計	△51,244	△8,018
四半期包括利益	2,916,124	3,082,652
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,490,968	2,774,073
非支配株主に係る四半期包括利益	425,155	308,579

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	航空・空港 事業	ライフ サービス 事業	リテール 事業	フーズ・ ビバレッジ 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	63,598,965	9,332,630	48,738,610	18,689,979	140,360,187	—	140,360,187
セグメント間の内部 売上高又は振替高	959	106,919	34,928	846,359	989,165	△989,165	—
計	63,599,924	9,439,550	48,773,538	19,536,339	141,349,353	△989,165	140,360,187
セグメント利益 (経常利益)	729,080	334,108	2,761,997	384,723	4,209,909	149,216	4,359,126

(参考)従前のセグメント利益(営業利益)	861,585	660,932	3,123,597	748,997	5,395,112	△1,383,710	4,011,402
----------------------	---------	---------	-----------	---------	-----------	------------	-----------

(注) 1. セグメント利益の調整額149,216千円には、セグメント間取引消去△700千円、全社費用の配賦額と実際発生額の差額及び配賦不能の全社損益149,917千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。また、配賦不能の全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない営業外収益及び営業外費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益から調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	航空・空港 事業	ライフ サービス 事業	リテール 事業	フーズ・ ビバレッジ 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	34,535,873	9,593,658	47,043,020	19,779,223	110,951,775	—	110,951,775
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,147	97,691	5,643	1,099,509	1,203,991	△1,203,991	—
計	34,537,020	9,691,350	47,048,663	20,878,732	112,155,766	△1,203,991	110,951,775
セグメント利益 (経常利益)	1,036,898	481,270	2,100,486	461,868	4,080,523	207,420	4,287,944

(参考)従前のセグメント利益(営業利益)	941,031	845,911	2,404,402	845,959	5,037,305	△1,431,083	3,606,222
----------------------	---------	---------	-----------	---------	-----------	------------	-----------

(注) 1. セグメント利益の調整額207,420千円には、セグメント間取引消去822千円、全社費用の配賦額と実際発生額の差額及び配賦不能の全社損益206,598千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。また、配賦不能の全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない営業外収益及び営業外費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益から調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、セグメントの名称を従来の「航空・空港関連事業」から「航空・空港事業」に変更しています。

また、当社においては、営業利益及び経常利益をともに重要な経営指標として管理しておりましたが、持分法による投資利益が増加してきたことから、経営管理指標として経常利益を用いることの必要性がより高まったと判断したため、第1四半期連結会計期間より、セグメント利益を配賦前営業利益から全社費用等配賦後の経常利益に変更しています。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、上記変更を踏まえて作成したものを記載しています。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。